

2020年度 事業計画書

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

学校法人 明星学苑

目次

はじめに

1. 明星学苑の建学の精神とその実現

2. 明星学苑全体の事業計画の概要

2.1. 学苑全体の基本方針

2.2. 重点事業項目

2.3. 学苑組織図

3. 当該年度の各部門の事業計画の概要

3.1. 明星大学・大学院

3.2. 府中校

・明星中学校・高等学校

・明星小学校

・明星幼稚園

4. 2020年度予算の概要

4.1. 予算編成プロセスの見直し

4.2. 2020年度予算編成の概要

参考資料

別表 1. 資金収支予算書

別表 2. 事業活動収支予算書

はじめに

日頃より、学校法人明星学苑の教育活動に多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
「2020年度 明星学苑事業計画書」が完成しましたので公開いたします。

学校法人明星学苑は、1923（大正12）年、建学の精神「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」ことを目的として、明星実務学校を創立しました。学苑の進展に伴い、幼稚園、小学校、中学校・高等学校、および大学を擁する総合学園として発展し、様々なステークホルダーに支えされながら、これまで延べ10万人を超える卒業生を輩出してきました。



外部環境がめまぐるしく変化する中、予測不能な時代に内外で活躍できる人材の育成を目指し、経営と教学が一体となって建学の精神を具現化する活動を継続して参ります。

学苑の「中期経営計画（2018-2022）」では、「Meisei Next100」を掲げ、創立100周年を迎える2023年、さらにその後の100年に亘って学苑が存続し、社会に貢献できる人材を育てる学校であり続けることを見据えています。その新たな歩みを踏み出すため、2018年度からの5年間を「改革の5年間」として重要な期間と位置付け、時代に応じた改革に着手してきました。

2020年度は、学苑の「中期経営計画」の3年目に当たります。改革の4つの柱である「教育改革」「業務・働き方改革」「財務基盤の強化」「経営計画の実行体制の整備」に基づいて定めた重点事業を大きく発展させ、本格化していく年となります。

グローバル化や急速なAI/ICT技術革新等による2030年以降の超スマート社会（Society5.0）を展望し、各学校長のリーダーシップの下、教育改革を着実に実行し、持続可能な社会づくりへの責任を果たしていきます。学生・生徒等、および卒業生やその保護者等、多くのステークホルダーのための明星学苑として存在し続けることができるよう努めてまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

1. 明星学苑の建学の精神とその実現

本学苑は、建学の精神「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」ことをもって、持続可能な社会づくりに寄与することをその使命とします。

- 教育方針
1. 人格接触による手塩にかける教育
 2. 凝念を通じて心の力を鍛える教育
 3. 実践躬行の体験教育

■校訓 健康、真面目、努力

■各校の教育目標・教育内容・教育方法

○明星大学 自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成

- ・現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得
- ・幅広い教養を身につけた自立する市民の育成
- ・心と体の健康管理の教育
- ・高度専門職業人及び幅広い職業人の育成
- ・体験教育を通して生涯に亘る学習意欲を獲得し、自らの歴史を綴ることができるようにする教育

○明星中学校・高等学校 自律心を持った自立した人の育成

- ・凝念を通じて心の成長に重きをおいた教育
- ・21世紀社会での活躍力を身につける体験的学習活動を通しての教科教育
- ・「見える学力」と「見えない学力」をクロスさせる教育
- ・SDG s を積極的に推進し、持続可能な社会作りに貢献できる教育
- ・学苑設置校（幼・小・大）との連携したグローバル教育とICT教育

○明星小学校 正直なよい子の育成

- ・凝念教育
- ・「賢さ」と「豊かさ」を兼ね備えた、輝きをもった子どもを育成する教育
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・思考力、学びに向かう力・人間性等）の育成を図る教育
- ・体験学習を通して豊かな心を育てる教育（心の教育、道徳・躰、きめ細かな生活指導等）
- ・五正道（正しく視る、正しく聴く、正しく考える、正しく言う、正しく行う）の実践

○明星幼稚園 よい子の育成

- ・「みなしずか」(凝念*)の実践
- ・一人ひとりを大切にした保育
- ・体験的活動を通して学ぶ基礎的知識の習得
- ・年齢に応じた基本的生活習慣の確立
- ・総合学園の特色を生かした保育

* “凝念”とは、静座して目を閉じ、雑念を取り払い無念無想の境地に身を置くこと。

2. 明星学苑全体の事業計画の概要

(1)学苑全体の基本方針（学苑中期経営計画より）

学苑が、「教育の明星」に相応しい教育を行うための不断の教育改革を推進していくため、その基本的条件となる安定的・永続的な経営基盤の強化に向けて、次の基本方針を掲げます。

■明星学苑のヴィジョンー5年後のあるべき姿ー

学苑は、5年後のあるべき姿として、次のことをヴィジョンとして掲げています。

『学生、生徒、児童、園児の可能性を限りなく広げ、どのような時代においても自己実現を目指し、生き抜くための豊かな教養と人間力を涵養する「教育の明星」を具現化し、学苑の社会的評価を向上させる。』

■中期経営計画の4つの柱

中期経営計画においては、2018年度からの5年間を「改革の5年間」と位置付け、次のことを4つの柱としています。

- ① 「教育の明星」の具現化ー各設置校における教育内容の質的向上と質保証の徹底を図り、特色ある教育内容を社会に発信し、教育界をリードしていくための改革
- ② 業務改革と働き方改革の推進ー現在行っている業務全般を見直すとともに、教職員の力を最大限発揮し、変化に即応できる強い組織となるための変革
- ③ 財務基盤の強化ー明星学苑の持続的な発展に向けて、環境の変化に柔軟に対応できる財務構造を作っていくための収支の均衡
- ④ 経営計画の実行体制の整備ー教育改革及び業務改革、収支の改善を着実に実行していくための経営改革

(2)重点事業項目

中期経営計画は、4つの柱に基づき、重点事業項目を次のとおりとしています。

■重点事業 ① 《教育改革》

○明星大学の教育改革

明星大学は、2010年度に「教育の明星大学」を掲げ、教育改革を先導する大学としての決意表明以降、様々な教育改革が推し進められ、今日に至るまで少なからず成果を挙げてきました。大学は、この方針をもって改革を更に進めていくこととなります。それらの

主だったものは以下の通りです。

- 1) 全学的な教学運営体制の整備
- 2) 授業の改革
- 3) 学生の意見への対応の整備
- 4) 英語教育体制の整備
- 5) 府中校との教育連携
- 6) 大学院の活性化
- 7) 通信教育部における今後の体制
- 8) 次なる事業運営目標<MI21 プロジェクト（第2期）>の推進
- 9) 改組改編の検討
- 10) 大学管理者選考の在り方についての改革

○府中校の教育改革（一貫教育体制の推進と教育内容の質的転換）

府中校は、同一校地に幼稚園、小学校、中学校、高等学校があり、それらの各設置校を貫く学苑の教育理念を一体的に実現していく条件が整っています。学苑の教育理念は、建学の精神とそれに基づく府中校各設置校の教育目標及びそれを具現化していくための教育方法である「実践躬行の体験教育」により構成されています。府中校の教育改革の基本方針は、この学苑の教育理念を貫く「実践躬行の体験教育」と「一貫教育」の質的充実をもって行うこととなります。社会の要請や状況に鑑み、具体的には、以下の通りとします。

- 1) わかる授業・面白い授業・学力がつく授業への授業改革
- 2) 一貫教育体制の深化による幼小中高大内部進学継続への積極的取組み
- 3) 高度情報化・グローバル化に向けての教育
- 4) 語学教育・理数教育・ICT教育の充実
- 5) SDGsに重きをおいた教育活動
- 6) 多様な進路進学対応（主として大学）

■重点事業 ②《業務・働き方改革》

学苑がこれまでの経営の中である程度把握している働き方の問題に関する根本的原因について、想定されるものは、①業務の非効率②人事制度の課題です。

①については、既存の業務フローや組織構造、学内手続きやルールを全面的に見直し、BPR (Business Process Re-engineering) を実施します。具体的には、部署統合をはじめ、各部の業務プロセス上の重複やルーティン業務の見直しを進め、各部の生産性向上を目指します。

②について、情報技術の高度化やグローバル社会の進展等、社会環境が急速に変化する中、教職員一人ひとりが時代の変化を敏感に察知し、高い意識をもって不断の教育改革・経営改革に取り組んでいく必要があります。2020年度は、職員の人事制度を改定し、新たな価値創造に絶えずチャレンジする姿勢を持つ職員を評価できる制度に切り替えます。

- 1) 業務プロセスの見直しと効果的・効率的な業務改革
- 2) IT化の促進及びAI/IoTの活用
- 3) 人事制度の改訂・導入

■重点事業 ③《財務基盤の強化》

学苑が、教育の質を更に高めていくためには、その活動に中心的に係わる教職員の雇用の維持と安定化が不可欠であり、教育研究活動を行う上での基礎的条件である施設・設備の維持と更新も不可欠です。また、新たな教育事業の展開のための投資的資金を保持していくことも必要であり、更に急激な経営環境の悪化が生じた時にも、それに耐え得る資金の保持も必要です。

したがって、学苑は、適切に持つべき資金と、収支の状況を可能な限り正確に予測しながら、中期財務計画を立てていくことがその基本方針となります。とりわけ、学生生徒等納付金と補助金の収入がほぼ上限である現実に対し、これまでの収支構造を見直し、支出を効果的に抑えていくことを重視しスクラップアンドビルドを進め、次の投資戦略に備えるために、実質的なPDCAサイクルを構築します。

- 1) 学苑の基本方針に基づく収入・支出計画
- 2) 施設・設備の計画的更新
- 3) フリーキャッシュ（非拘束性資金）及び短期的・長期的更新資産の維持

■重点事業 ④《経営計画の実行体制の整備》

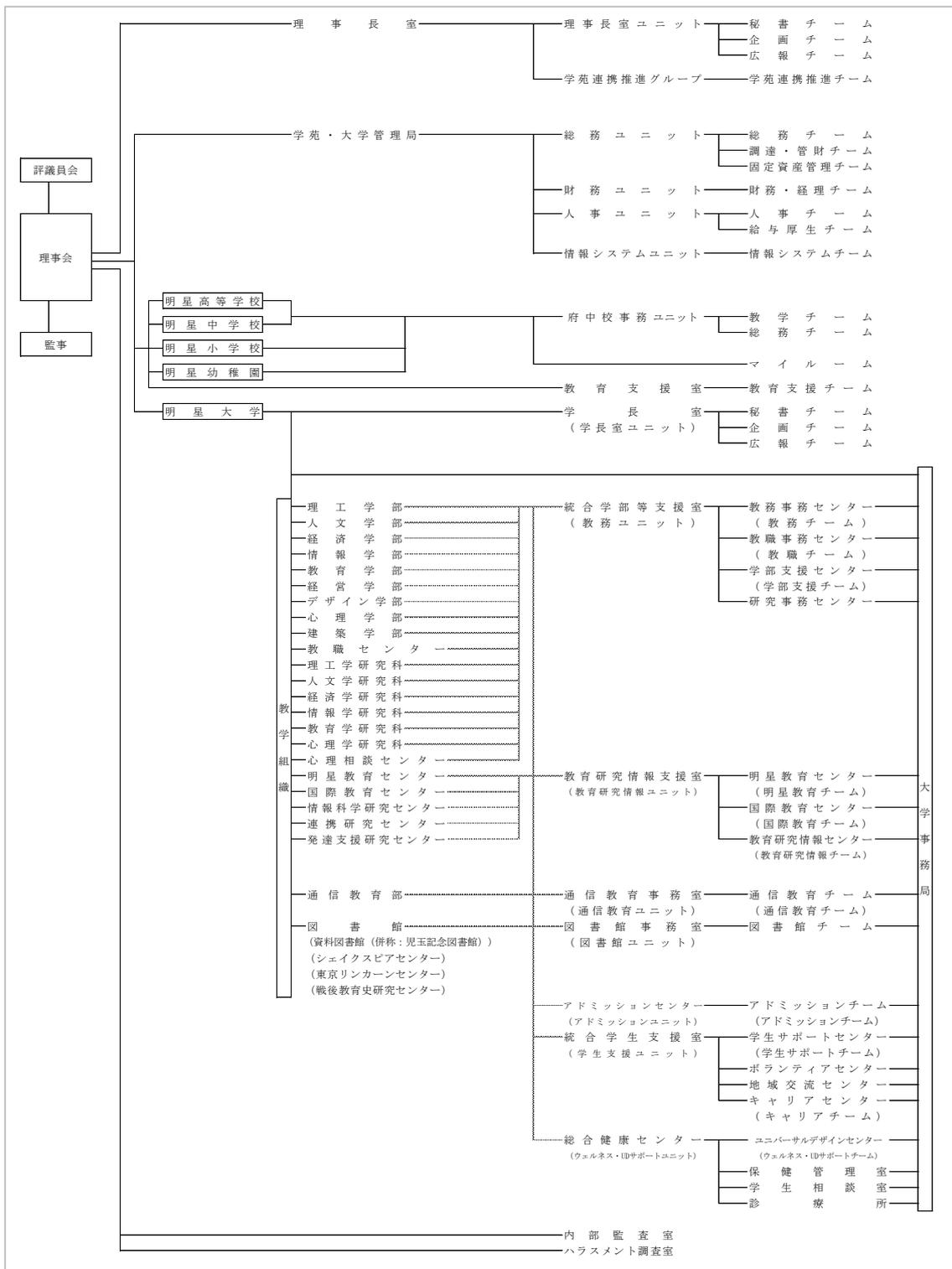
学苑の存続と発展のための計画の一環である中期経営計画の下、多くの課題を着実に解決していくことが経営陣はもとより、全教職員にも課せられています。2019年には、法人本部を廃し、総務部、財務部および人事部等を再編統合しましたが、学苑全体の事務組織をさらに改編し、職員の柔軟な配分と人材の効率的な運用ができる組織を再構築する必要があります。

2020年度からは、学苑の事務組織全体において「ユニット制」を導入し、組織の大ぐくり化を実行することで細分化された組織をより柔軟で効率的な組織に改編します。その上で中期経営計画の実行体制を整備し、計画を着実に実行していくとともに、課題に優

先順位を付け、業務改革を推進していきます。

- 1) 中期経営計画の実施体制の整備と推進
- 2) IR 部門の強化と各部内との連携
- 3) 業務プロセスの見直し及び課題解決作業の優先順位付けと実行
- 4) 組織の壁を越えた改革作業組織（task force）の柔軟な編成と推進

(3)学校法人明星学苑 組織機構図 (2020年4月)



業務改革推進グループ：理事長の直下に「業務改革推進グループ」を新設し、業務プロセスの改革、業務のIT化等の業務改革を推進します。なお、「業務改革推進グループ」は2021年度末までの限時的組織です。

3. 当該年度の各部門の事業計画の概要

3.1. 明星大学・大学院

(1)基本方針

明星大学は、設置者である学校法人明星学苑の建学の精神に基づき、学苑の高等教育機関として「自己実現を目指し、社会貢献ができる人の育成」を教育目標としています。この教育目標を達成するために、「教育の明星大学～実践躬行の精神を身につけ、社会で活躍し、未来を拓く学生を育てる～」をヴィジョンとして掲げ、学部学科においては「学士力」の獲得、大学院においては研究者や高度専門職業人の養成を柱に、以下の教育方針に基づき教育研究活動を展開します。

- 現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得
- 幅広い教養を身につけた自立する市民の育成
- 心と体の健康管理の教育
- 高度専門職業人及び幅広い職業人の育成
- 体験教育を通して生涯に亘る学習意欲を獲得し、自らの歴史を綴ることができるようにする教育

情報化やグローバル化、AIの進化といった急激な社会変化が続く予測困難な時代にあっても、社会・時代の変化や要請に柔軟に応え得る人材を養成する大学であり続けるため、この教育方針の下で教育の在り方を不断に見つめ直し教育改革を推進していきます。

本学では、2017年度から2022年度までを中期事業計画期間と定め「多摩地域において人材養成・知の拠点として不可欠な大学になる」ことを目標として、「教育の明星大学」を具現化する教育及び研究、社会貢献に係る諸事業を展開します。

(2)事業計画

明星大学中期事業計画の柱である以下の教育研究に係る事業を、認証評価結果（2018年3月：大学基準に適合していると認定）を踏まえて推進・展開し、本学の教育目標・教育方針の実現を図ります。

1. 多摩地域における連携強化と大学知財の積極的提供
2. 明星大学の知名度向上を目的とした教育研究成果の積極的発信
3. 総合学苑としての強みを活かすための取り組みの推進
4. 保護者や卒業生から信頼される大学づくりの推進
5. 学生が社会から評価される出口戦略の積極的展開

6. 目的意識の高い学生の確保に向けた入口戦略の積極的展開
7. 「教育の明星大学」の具現化に向けた教育改革の推進
8. 学士課程教育を支える研究活動の推進
9. 有望な学生を更に伸ばし、社会に輩出する育成事業の推進
10. 内部質保証に係る検討体制の確立と活動の推進
11. ヴィジョン達成に向けた教育研究組織・管理運営体制の抜本的改革
12. 安定的な財政基盤を維持するための戦略的な財務計画の策定と推進

(3)重点事業

① 全学的な教学マネジメントシステムの整備

社会から本学に対する信頼性の担保及び学生本位の教育の質の向上のため、3つのポリシーに基づく教育の実質化を軸に、学修成果の把握・可視化等を踏まえた本学独自の教学マネジメントシステムを検討し、自己点検・評価活動の体制整備及び内部質保証の取り組みを促進します。

② 入口戦略の基盤概念の構築

「明星大学中期事業計画」の「6. 目的意識の高い学生の確保に向けた入口戦略の積極的展開」および「7. 「教育の明星大学」の具現化に向けた教育改革の推進」に着手する基盤として、受験生・入学生と明星大学のマッチングのキー・コンセプトを明確化します。具体的には、9学部12学科がワンキャンパスに集結しているという他大学にまれな本学の条件を活かし、学外での体験学習も含めた、垣根を越えていく学修の型「クロッシング」(交わり)を「教育の明星大学」の際立った個性として打ち出します。

③ 教育改革への着手

21世紀社会において誰にも必要とされる【学び続ける力】と【協働する知性】の伸長を主要目的とする教育改革に着手します。本学の教育改革は、受益者たる学生のみならず、改革に携わる教職員にも、ライフロングの幸福を実現する手立てであるべきという観点に立ちます。これからの数十年を充実して生きていくことが学生、教職員のいずれにも望まれるからです。

④ 学修環境の整備

学修者本位の教育、すなわちひとりひとりがモチベーションを高めて学修に向かう「パーソナライズした学修環境」の整備に着手します。教育・学修の「パーソナライズ」とは、協働学修、グループワーク、アクティブ・ラーニング、体験学習等、「クロッシング」(交わり)と総称しうる垣根を越えた学修過程において仲間と学び合い、他者と意見交換をするなかで、自分の個性や関心に気づき、それを協働作業に活かして問題解決策を共に導き出す過程

を経験することで、ひとりひとりがモチベーションを高め、自己実現を実感していくことで
す。

⑤ eポートフォリオの整備と試行

学生が個人としての学修過程や「クロッシング」の進行を記録し、外部への成果発信の基
盤にもできるeポートフォリオを、各自の学習モチベーションを高める「パーソナライズし
た学修」の支援基盤として整備し試行します。

⑥ 体系的なキャリア教育・職業教育の展開

「明星大学中期事業計画」の「5. 学生が社会から評価される出口戦略の積極的展開」の
実現のため、新たに進路担当を副学長の任務に加え、学内でのキャリア・プランニング、キ
ャリア・デベロップメント等の諸施策を統一的観点から進めます。キャリア教育においては、
実社会で経験を積む各世代の卒業生との連携可能性も検討します。

3.2. 府中校

府中校においては、次の基本方針に基づき、各設置校の方針及び計画の策定を行います。

① 府中校一貫教育体制の確立

幼稚園から高等学校までを擁する府中校において、教育の効果がより高められる一貫教
育体制を強化・構築します。「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」という建学
の精神に基づき、現代のグローバル化の進行や社会の変化に柔軟に対応できる力
を備えていくための基礎力を身に付けた生徒、児童等を育成するため、特に英語及び理数に
おける一貫教育体制の整備・確立を目指します。

② 教育成果の向上

中学校・高等学校においては、2016年度に設置したMGSクラス（Meisei Global Science：
難関大学を目指す特設クラス）により大学合格実績が向上しました。さらに、2020年度よ
り、教育内容をさらに充実させるべく第2次教育イノベーションへと動いています。具体的
には、MGSクラスと本科クラスをそれぞれコース制にし、時代の変化に対応するコンセプ
ト・教育システムを確立していきます。正課授業の充実はもとより、体験教育を具現化する
探究学習においてはSDGs中心の学びとします。また、語学教育・グローバル教育・ICT
教育に重きをおきます。

小学校においては、2016年度からの英語の授業時間数の増加に伴い、「聞く、話す、読む、
書く」の4技能の成長段階に応じた学力の基盤づくりのための指導・実践の充実、英語の基
礎力を身に付けた上での中学校教育との連携をより一層進めていきます。

また、小学校においては、英語教育の強化、理数教育の強化、先進的なプログラミング教育の充実を図り、教育力を向上していきます。

■一貫教育の強化、学校評価と IR 機能強化（教育支援室）

(1)基本方針

教育支援室では、学苑の建学の精神に基づき、府中校における一貫教育体制の強化・構築に関する様々な支援を行っています。教育力向上や体験教育に基づいた「明星教育」の特色をより打ち出すことを目標に、府中校各設置校に対する様々な調査、企画、運営、助言等の支援を行い、より教育効果の高い一貫教育体制を築いていきます。

この方針に基づき、以下のような事業を展開しています。

- 幼小中高連携のための支援に関する事業
- 教員の研修・サービスに関する事業
- 校長・園長の学校運営の助言に関する事業
- 府中校全体の広報に関する事業
- その他府中校の教育支援に関する事業

(2)事業計画

中期事業計画を基に、幼小中高一貫教育カリキュラムの精選、それに基づく教育・授業研究活動の向上や ICT 教育等の大学連携、IR 機能を生かした経営施策や広報戦略など、様々な施策を推進します。

① 府中校教育改革の推進

昨年度よりスタートした新たな中期経営計画を基に、幼小中高一貫校に相応しい、授業力、学校力を兼ね備えた学苑を目指し、時代に応じたカリキュラム編成の継続、教育・授業研究活動の向上、大学連携や ICT 教育・ICT 活用の更なる推進に関する支援等を行います。

② 府中校経営改革の推進

初年度の中期事業計画を踏まえ、IR 機能を生かした経営基盤の強化を目指し、データに基づく広報戦略や様々な施策、人事制度や人事計画の改善、働き方改革に関する支援等を行います。

(3)重点事業

① 15 ヵ年一貫教育カリキュラムの整備

昨年度整備した幼稚園から高校までの 15 ヵ年を通した子ども観、指導観に基づき、新学習指導要領、及び大学入試改革に即した小中一貫カリキュラムの編成を行います。

② 教育・授業研究体制の構築

教育力、授業力の資質向上のため、特に理数・英語科に焦点を当て、授業研究体制の強化を行うとともに、外部私立校との交流・連携を積極的に行います。

③ 大学との連携

昨年度より始めた明星の特色あるプログラミング教育カリキュラム編成を強化するとともに、大学生による明星っ子クラブの保育補助員やマーチングバンド指導員など、明星大学情報学部や教育学部と連携した事業開拓を進める。

■明星中学校・高等学校

(1)基本方針

明星中学校・高等学校では、学苑の建学の精神に基づき、「自律心を持った自立した人の育成」を教育目標としています。また、教育ビジョンを「グローバル時代に対応した『活躍力』を一人ひとりに身につけさせる」としており、これらを達成するためのあるべき姿を以下のとおり掲げています。

- ① めざす学校像 「生徒が通いたい学校・保護者が通わせたい学校」
- ② めざす生徒像 「何事にも挑戦し、自分の可能性を試す」
- ③ めざす教職員像 「生徒一人ひとりの能力・意欲・適性を見据えた学習指導ができる」

(2)事業計画

2020年度は、以下の教育改革に繋がる事業を推進・展開することで、中学校・高等学校の教育目標・教育方針の実現を図ります。

- ① 教育改革のさらなる推進によるコアコンピタンスの価値向上
- ② 業務改革・働き方改革を通じた組織力の強化
- ③ 上記1と2を効果的に実行するための人と組織の強化
- ④ 大学進学実績向上への戦略と戦術の深化
- ⑤ 入学生増につながる中高一貫教育の再構築
- ⑥ 明星大学との高大連携による明星大学進学者の増加
- ⑦ 体験教育・グローバル教育・ICT教育・理数教育の充実
- ⑧ 優秀な生徒及び安定的生徒数確保に向けた入学広報戦略の深化

(3)重点事業

① 研修体制の充実

- ・進路進学実績を更に向上させ、生徒一人ひとりの成長を的確に支援できる優秀な教師と学校運営を目指した人と組織の成長に向けて、管理職研修、セグメント別研修、先進校視察、校内研修、外部研修会への参加を促進させます。
- ・生徒の成長と明星大学進学向上を目指し、アドミッションセンター・明星教育センター・各学部学科との高大連携プログラムを充実させます。

② 教育イノベーション推進

- ・時代の変化に対応でき、持続可能な世界作りに貢献できるカリキュラム・体験教育を実践することで、生徒・保護者・地域から信頼される学校作りをします。
- ・正課授業・課外授業におけるアクティブ・ラーニングを推進し、リベラルアーツ、STEAM、SDGs への取組みを継続的に実践していきます。
- ・探求学習教材の研究、専門講師の招聘、体験型研修の実施、各種大会・コンテストへの参加、研修会・研究会への教師派遣などを実践します。

③ 大学進学実績の向上

- ・MGS コースにスーパーMGS クラスを設置し最難関大学への合格実績の向上への転換を図り、MGS を2年次より、GMARCH 大学進学を目標とし英語学習・グローバル体験に重点を置く MG クラス（明星グローバル）と理系国公立大学進学と理数巨郁に重点においた MS クラス（明星サイエンス）に進化させます。
- ・本科コースは明星大学内部進学を第1目標とし、基礎学力養成と高校生活の充実を図りながら推薦・AO 入試に対応できる力を養成します。

④ グローバル教育の充実

- ・英語教育×ブランドデザインをより発展させるため、コミュニケーション力養成教科のオンラインや e ラーニング導入を継続し、中学ー高校における英語教育の接続を一層深化させ、英語外部検定試験を指標とした英語指導に取り組みます。
- ・ヤングアメリカンズ、ボストンリーダーシップ・プログラム研修、高校生向け英語サマースクール（UCL-Japan Youth Challenge）などの様々なイベントの実施と、多様なプログラムや他校を研究します。

⑤ ICT の活用と推進

- ・整備されてきた ICT 教育環境のインフラを最大限に活用し、教員・生徒双方の活用力向上に向けての取り組みを充実させ、プログラミンや AI の研究や体験に挑戦します。

⑥ 優秀な入学生確保

- ・給付型奨学金を充実させ優秀な生徒を確保し、大学進学実績向上の布石を打ちます。

■明星小学校

(1)基本方針

明星小学校では、学苑の建学の精神に基づき、「正直なよい子の育成」を教育目標としています。そこで、教育ビジョンとして、『賢さ』と『豊かさ』を兼ね備えた、輝きをもった子どもの育成」を掲げ、次の2つに焦点を当て、子どもたちの心が開き、学び、成長していく、さわやかな風が流れる学校を目指し、子どもたち、保護者、教職員一同がチームを組んで一緒に学校を創っていきます。

- これからの社会に必要なグローバル力を育む「英語力」と「理数力」を重視した教育。
- 深い学びと豊かな心を育む五感を通して感動を体験する教育と高い教育力。

(2)事業計画

教育ビジョンの具現化に向けて、次の観点から教育活動を推進します。

① 教育力向上

- 1) 新学習指導要領完全実施に伴い、指導計画と評価規準を見直したカリキュラムの構築と、これからの社会に必要なグローバル力を育む「英語力」と「理数力」を重視した教育プログラムの実践を図ります。
 - ・全教科で、カリキュラムと評価規準の見直し、再構築を行い、カリキュラム・マネジメントを実行していきます。
 - ・アクティブラーニングを重視した多彩な英語プログラム（学ぶプログラムと使うプログラム）で、学齢に応じた効果的な学習を図ります。
 - ・英検対策プログラムで、英検の卒業時取得をめざします。
 - ・知的好奇心と論理的思考力を育てる理数プログラムを実施します。
 - ・ゲームやパズルなどで数量や図形感覚を豊かにする A A 授業の定着を図ります。
 - ・思考力向上問題集の製作・実施を図ります。

- ・ 知的好奇心を刺激し学習への意欲につなげる低学年からの理科学習の充実を図ります。
 - ・ ICT教育、プログラミング教育への対応、及び体制を整備し、プログラムを作成・実施します。
 - ・ プログラミング教育では、ベネッセ、明星大学情報学部との連携を図り、研究を深めます。
 - ・ 各種研修会、講習会を整備します。
- 2) 深い学びと豊かな心を育む五感を通して感動を実感する体験教育を通して、高い教育力の実現を目指す「心が育つ感動ある」体験プログラムを実施します。
- ・ 心の働きを1点に集め、精神を集中させる「凝念」で、集中力を高めるとともに、心身の健康を育てます。
 - ・ 「くぬぎの時間（総合的な学習の時間）」で、基幹力を支える4つの力（「見つける」「共に学ぶ」「判断する」「伝え合う」）の観点から、多様な体験を通して知的好奇心や自ら考え行動する『生きる力』を育むカリキュラムを実践します。
 - ・ 1年生からの宿泊学習を含む体験学習を更に深化し、豊かな情操と自立心を養う宿泊学習を含む体験学習のカリキュラムの再構築を図ります。
- 3) 教師の授業力（授業観・教材研究力・学習指導力・人間性）を豊かなものとしていく様々な授業改革の推進を図ります。
- ・ 校内研究の教科を算数とし、授業研究を通して教師の授業力を鍛えます。
 - ・ 授業研究会、校内研修会の充実を図ります。
 - ・ 外部への発信、外部の情報を得るための研修体制を整備します。

② 一貫教育の推進

子どもの力を最大限に伸ばす一貫教育の確立を目指します。

- ・ 「憧れが可能性を育てる」体験システムを確立・実施します。
- ・ 幼小連携カリキュラムで、幼小の連携を円滑に図ります。
- ・ 小中連携カリキュラムで、小中の連携を円滑に図ります。
- ・ 中学校教員による小学校での授業、小学校教員による幼稚園での授業を企画・実施し、「中1ギャップ」「小1ギャップ」を防ぐ場を創ります。

③ 内部進学者の確保

- 1) 幼・小・中の内部進学者を確保し、より教育効果の高い一貫教育体制を築いていきます。
 - ・ 幼稚園からの内部進学者数 40%以上、中学校へは内部進学者数 70%以上の確保を目指します。
 - ・ 幼小連携進学スケジュール、小中連携進学スケジュールで、深い連携を図り、内部進学者の確保を図ります。

- 2) 特色ある「明星ブランド」を創り、「教育の明星」を発信していきます。
 - ・ ヤングアメリカンズへの参加を通して、英語力、表現力の向上を図ります。
 - ・ 明星大学教育学部と連携して、「わくわくスタディ（算数）」「プログラミング学習」などで、特色ある教育を行います。
 - ・ インターンシップ生、教育実習生の受け入れを積極的に行います。
 - ・ 明星大学教育学部と連携を図りながら、保護者向けの教養講座を開講します。

④ 広報活動の強化と入学者確保

「教育の明星」をブランド化し、広報活動の強化と入学者の確保を図ります。

- ・ 入学者確保のため学校公開・説明会、塾・幼児教室・幼保説明会ならびに講演を充実させます。
- ・ 保護者、並びに同窓会の組織拡充を通じて、小学校の活動を紹介します。

(3)重点事業

学苑の中期経営計画に基づいて立てた教育ビジョン「『賢さ』と『豊かさ』を兼ね備えた、輝きをもった子どもの育成」の3年目の区切りの年として、子どもたちの心が開き、学び、成長していく、さわやかな風が流れる学校を目指し、次のものを重点事業として行っていきます。

① 教育力向上

- ・ 教師の資質・授業力の向上を目指し、教師の授業力（授業観・教材研究力・学習指導力・人間性）を豊かなものとしていくため、授業研究会の強化、外部への発信（公開授業研究会）を行っていきます。
- ・ 出版物発刊による外部への発信を行っていきます。
- ・ 2020年度のプログラミング必須化に伴い、更なる ICT 環境を充実させ、プログラミング教育を「明星ブランド」の一つとして発信していきます。
- ・ ヤングアメリカンズへの参加（5年生必修）を通じて、英語活動ならびに表現活動等の指導を教員が学ぶ機会を設けます。

② 広報活動強化

- ・ 入学者を増やすため、有効な媒体への積極的な広告等を推進します。
- ・ 広報活動やプレスクールを通して明星ファンを増やし、入学者増につなげていきます。

③ 一貫教育推進

- ・ 内部進学者（幼稚園から小学校、小学校から中学校）数の増加を目指していきます。
- ・ 小学校教員を幼稚園の園長補佐と兼任させ、幼小連携をより一層深めていきます。
- ・ 幼小合同研修（12月・2月）の実施（園児・児童理解の向上、預かりの連携推進）のほかに、幼稚園の保護者向けの小学校教員による講演（「小学校入学に際して」など）を行っていきます。
- ・ 3年生以上の保護者への中学校説明会の実施を中学校と連携し、中学校の質の良い魅力を伝えていきます。
- ・ 幼稚園、中学校の園児と生徒との交流活動を推進して、府中校一体となった教育活動を行っていきます。

④ 創立70周年（2020年）記念事業の準備

- ・ 小学校創立70周年に当たり、記念事業として式典の実施や記念誌、記念品の製作、記念イベントを行います。

■明星幼稚園

(1)基本方針

明星幼稚園では、学苑の建学の精神に基づき、「元気なよい子の育成」を教育目標としています。質の良い「遊び」を主体として園生活を通し、考える力や基礎体力、社会性の基礎を養い、小学校就学後も自ら考え、様々な事象に興味関心を持って学んでいく力を育てます。

(2)事業計画

① 就学に向けて

- ・ 小学校就学に向けて、確かな学力につながる学びの芽生え、健康・基礎体力につながる「生活習慣・運動」を身に付け、社会生活における望ましい「態度や習慣」、「他者への思いやり」及び「協同の精神」の芽生えを促します。

② 一貫教育の推進

- ・ 明星小学校との連携事業を活用し、幼小合同研修会において相互理解を深め、学内進学者の増加へと結び付けます。

③ 教育目標達成に向けて

- ・ ルーブリック評価を実施し、卒園までの 3 年間の成長を可視化し具体的な教育活動やカリキュラム・マネジメントへ生かします。
- ・ 教員研修により各教員が課題意識を持ち、教育力向上を目指します。

④ 心の教育

- ・ 園児に小動物（熱帯魚、小鳥等）を身近に感じさせることで、興味を持たせ心の安定を図ります。
- ・ 心の成長を促すために各担任や園長講話では園児に分かりやすく命の大切さ、社会生活、自然現象、数の知識等を伝え、保護者に対して幼児期に非認知能力を育成する重要性を説いていきます。

⑤ 子育て支援

- ・ 子育て支援として、未就園児対象「ひよこクラス」、1 歳児対象「ぴよぴよクラスファースト」をさらに充実させます。
- ・ 2 歳児プレスクール「ぴよぴよクラスセカンド」を継続して行い、次年度入園に向けての準備をしていきます。

⑥ 教育現場における園児のリスク管理及び個人情報の管理体制強化

- ・ 危機管理マニュアルに基づいた訓練・研修を継続実施するとともに、個人情報保護についての理解を深め、その留意事項を日常業務に生かしていきます。

(3)重点事業

① 一貫教育推進

- ・ 明星小学校への内部進学率 40%を目指し、幼小教員間の垣根を超えた協業を継続します。

② 教育力向上

- ・ 独自のルーブリックの評価を見直し、その活用により園児の成長記録を可視化し、カリキュラム・マネジメントに活かします。

4. 2020 年度予算の概要

4.1. 収支均衡に向けた予算編成プロセスの見直し

学苑の収支均衡の実現は、社会環境の変化に対応するために必要であり、将来に亘る学苑の持続的成長を促進し、学苑の教育・研究・社会貢献活動の諸条件を整備することにつながります。本学苑は、現在の厳しい財務状況の改善に向け、中長期的な財政計画の策定と実行及び収支構造の見直し、経営改善に向けた予算執行を行い、財務基盤の強化を図ります。

2020 年度予算編成作業では、従来の編成プロセスを抜本的に見直しました。

具体的には、複数の部署をまとめた予算上の新しい「事業単位」を構築し、それぞれ事業単位責任者を定めて抜本的な経費の見直しを実行できる体制を整備しました。

見直しにあたっては、従来の経費管理に留まらず、業務委託を含む人的経費も考慮の上、見直すべき項目を重点的にピックアップし精査しました。今後は、事業のスクラップアンドビルドとあわせて、予算執行段階においても経営改善に向けた実質的な PDCA サイクルの構築に着手します。

4.2. 2020 年度予算編成の概要

(1) 資金収支について

資金収支予算書については、別表 1 のとおりです。

学生生徒等納付金収入は 12,442 百万円を計上し、前年度予算と比較して 167 百万円減となっています。補助金収入は 2,046 百万円を計上し、前年度予算比 217 百万円増となっています。

人件費支出については 9,563 百万円を計上し、前年度予算比 198 百万円増となり、そのうち教職員等人件費支出については前年度予算比 7 百万円の増、退職金支出については前年度予算比 191 百万円の増となりました。教育研究経費支出は 3,862 百万円を計上し、前年度予算比 226 百万円減となり、管理経費支出は 1,237 百万円を計上し、前年度予算比 384 百万円減となりました。施設関係支出は 414 百万円を計上し、前年度予算比 60 百万円減となり、設備関係支出は 297 百万円を計上し、前年度予算比 67 百万円減となりました。資産運用支出は 6,244 百万円を計上し、前年予算比 3,144 百万円増となりました。

この結果、翌年度繰越支払資金は 5,177 百万円となり、前年度予算比 4,651 百万円減となりました。

(2)事業活動収支について

事業活動収支予算書については、別表2のとおりです。

教育活動収入については15,488百万円を計上し、前年度予算と比較して223百万円増となり、教育活動支出については17,234百万円を計上し、前年度予算比605百万円減となりました。

教育活動外収入については292百万円を計上し、前年度予算比42百万円増となり、教育活動外支出の計上はありません。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合算した経常収支差額については、1,454百万円の支出超過となり、前年度予算比870百万円の改善となりました。

経常収支差額に、特別収支差額及び予備費（2020年度は計上なし）を加えた基本金組入前当年度収支差額は、1,355百万円の支出超過となり、そこから基本金組入額687百万円を差し引いた当年度収支差額は、2,043百万円の支出超過となりました。当年度収支差額と前年度繰越収支差額を合計した翌年度繰越収支差額は、27,038百万円の支出超過となりました。

参考資料

別表1 資金収支予算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで (単位:百万円)

収入の部			
科目	当年度予算	前年度予算	増減(▲)
学生生徒等納付金収入	12,442	12,609	▲ 167
手数料収入	444	381	64
寄付金収入	28	54	▲ 26
補助金収入	2,046	1,829	217
資産売却収入	1,217	1,133	84
付随事業・収益事業収入	214	161	53
受取利息・配当金収入	292	250	42
雑収入	374	228	145
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,155	2,405	▲ 250
その他の収入	387	445	▲ 58
資金収入調整勘定	▲ 2,729	▲ 2,711	▲ 18
前年度繰越支払資金	9,828	12,408	▲ 2,580
収入の部合計	26,698	29,193	▲ 2,495

支出の部			
科目	当年度予算	前年度予算	増減(▲)
人件費支出	9,563	9,365	198
(教職員等人件費支出)	9,213	9,206	7
(退職金支出)	351	159	191
教育研究経費支出	3,862	4,088	▲ 226
管理経費支出	1,237	1,621	▲ 384
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	414	474	▲ 60
設備関係支出	297	364	▲ 67
資産運用支出	6,244	3,100	3,144
その他の支出	1,064	1,442	▲ 378
[予備費]	0	0	0
資金支出調整勘定	▲ 1,161	▲ 1,089	▲ 72
翌年度繰越支払資金	5,177	9,828	▲ 4,651
支出の部合計	26,698	29,193	▲ 2,495

※百万円未満四捨五入のため一部端数に差異が生じている。

別表2 事業活動収支予算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで (単位:百万円)

事業活動収支				
科目	当年度予算	前年度予算	増減(▲)	
教育活動収支	収入の部			
	学生生徒等納付金	12,442	12,609	▲ 167
	手数料	444	381	64
	寄付金	30	58	▲ 28
	経常費等補助金	1,984	1,828	157
	付随事業収入	214	161	53
	雑収入	374	228	145
	教育活動収入計	15,488	15,265	223
	支出の部			
	人件費	9,607	9,473	133
	教育研究経費	5,886	6,232	▲ 347
	管理経費	1,742	2,134	▲ 392
	徴収不能額等	0	0	0
	教育活動支出計	17,234	17,840	▲ 605
教育活動収支差額	▲ 1,747	▲ 2,575	828	
教育活動外収支	収入			
	受取利息・配当金	292	250	42
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	292	250	42
	支出			
	借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外支出計	0	0	0	
教育活動外収支差額	292	250	42	
経常収支差額	▲ 1,454	▲ 2,324	870	
特別収支	収入			
	資産売却差額	20	29	▲ 9
	その他の特別収入	82	23	59
	特別収入計	102	52	50
	支出			
	資産処分差額	3	6	▲ 3
	その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	3	6	▲ 3	
特別収支差額	99	46	53	
[予備費]	0	0	0	
基本金組入前当年度収支差額	▲ 1,355	▲ 2,278	923	
基本金組入額	▲ 687	▲ 506	▲ 182	
当年度収支差額	▲ 2,043	▲ 2,784	741	
前年度繰越収支差額	▲ 24,995	▲ 22,211	▲ 2,784	
基本金取崩額	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	▲ 27,038	▲ 24,995	▲ 2,043	
(参考)				
事業活動収入計	15,882	15,568	315	
事業活動支出計	17,238	17,846	▲ 608	

※百万円未満四捨五入のため一部端数に差異が生じている。